

かけはし

学校だより
令和6年度 11月号
高松市立弦打小学校



**自分の大切さとともに、
他の人の大切さを認めることができる絆月間に！**

校長 池田 茂樹

11月は「絆月間」として、なかまの大切さや、よりよい人間関係の築き方等について、道徳や特別活動、教科の学習など全ての教育活動を通して深く考えていきたいと思えます。

1・2年生は、友達のよさを見付け、みんなとなかよく助け合って活動することができるように、日常で起こりうる場面を題材にして自分はどうすればよいか考えていきます。

3・4年生は、互いに認め合い、なかまとして励まし合い活動することができるように、友達のことを正しく理解する活動を通して、いじめや差別のない誰もが安心な生活を創るために、自分はどうするのかを考えていきます。

5・6年生は、偏見や不合理な差別に気付き、その解決に向けてともに考え、誰もが支え合って生きることができる社会を創造しようという意識を高めていきます。社会の中にある人権課題に目を向けて、差別や偏見を解消していく主体となるように深く学んでいきます。

11月16日（土）の学習参観では、各学年で学んだことを、保護者のみなさんにも発信することができればと思います。

また、11月20日（水）には、全校生で人権コンサートに参加し、命の尊さについて心から考えたいと思えます。

絆月間には、「友達のいいところみつけ」や、ペア学年のふれあい活動等を通して、具体的な相手意識をもって人権感覚を磨くことができるようにしていきたいと思えます。



エピソード5 「お米のありがたさを実感した稲刈り体験」3年生

10月18日（金）に3年生が稲刈り体験をしました。6月に田植え体験をした後に、校内でもバケツ稲を育ててきました。猛暑のため水が涸れないように気を付けたり、病気にならないように観察したりしながら、大切に栽培してきました。稲を育ててお米をつくることの大変さや、米作り農家の方々の知恵や技術の素晴らしさを実感することができたようです。



▲田植え体験のようす（6月）



▲バケツ稲栽培のようす（9月）



▲稲刈り体験のようす（10月）